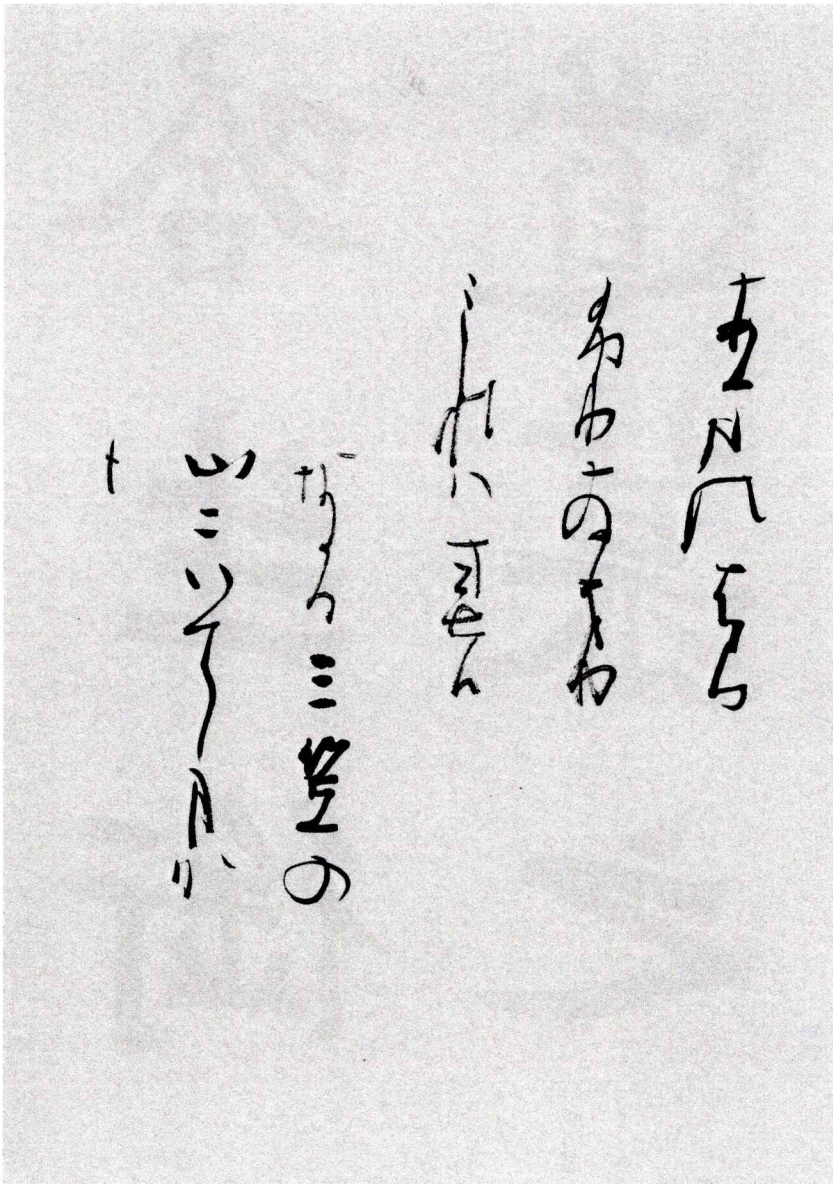


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (六)

天の原^{あま}ふりさけ見れば春日^{かすが}なる 三笠^{みかさ}の山に出^いでし月かも

安倍仲麿^{あへのなかまろ}



中村素堂先生の書

大島香菊様提供

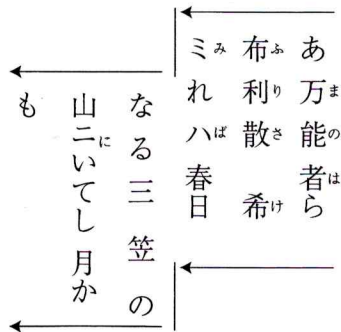
〈歌意〉

「大空をはるか遠くまで眺めると月が輝いているが、あれは昔、日本にいた時に、奈良の春日の三笠山に出たあの月と同じ月であるよ。」この歌は『新古今集』（羈旅・四〇六番）に出ています。

（安倍仲麿）

七〇一年〜七七〇年、七〇歳。十六歳で遣唐留学生として渡唐した。三五年後、帰国の途中に難破して死ぬまで唐朝に仕えた。

〈字母〉



左右2集団共塊的構成にして上下を揃え、段差をつけ整然とした密の美しさを感じられます。

（中村青藍）